

英国における不妊治療

昨今、晩婚化にともない不妊症で悩まれるカップルが増加しています。不妊症が増えている背景には、生活様式の変化、過剰なストレスなどもあげられます。今回は、社会的な要因から引き起こされる現代病とも言える不妊症について、英国での治療事情をご紹介します。

一般的に、赤ちゃんを作ろうと思ってから1年経過しても、なかなか妊娠しない場合、妊娠に向けての検査と治療を考えます。36歳以上の方の場合、半年程度でも検査治療をおすすめすることがあります。

英国では、まずGP（家庭医）を受診し、NHS病院（国立病院）に紹介してもらいます。この場合、診療費は原則無料となります。ただし、所有のVISA Statusによっては、NHSでの検査や治療を受けられないことがあります。また、コロナウイルス蔓延も伴って、検査や治療に非常に長い時間を要することが多いようです。

一方、有料となりますが、英系または日系プライベート病院を受診することも可能です。この場合、検査や治療は、スムーズに行われます。

具体的な検査は、女性の場合、血液検査（ホルモン検査、クラミジア検査、卵巣予備能検査）、卵管通過性検査、超音波検査などです。男性は、精液検査となります。日本でよく行われる抗精子抗体検査やヒューナーテストは一般的には行われません。なお、これらの検査は、日系プライベート病院でもお受けいただけます。

治療に関してですが、排卵に問題がある場合は、排卵誘発剤の内服がすすめられます。卵管が閉塞している場合や子宮内膜症などの場合、手術による治療が行われることもあります。

NHS病院における人工授精（IU）や体外受精（IVF）の場合、病院ごとに条件が異なるのが実情です。たとえば、36才以降は体外受精を行わない病院がある一方、42才まで体外受精をお受けいただけることもあります。また、施行回数も1-3回と病院ごとに異なります。

なお、英系プライベート病院では、このような制限はありません。

副作用の少ない身体に優しい初期治療は、日系病院でも、お受けいただけます。具体的には、排卵の時期を確かめながら行うタイミング法や内服による排卵誘発剤になります。日系病院では、注射による排卵誘発、人工授精、体外受精などはお受けになることはできません。

さて、ロンドンの英系プライベートクリニックで不妊症の治療を受ける場合、どの程度の費用がかかるのでしょうか？

まず、初診料は40分程度のコンサルテーションで、おおよそ£250-300程度です。再診は、30分程度で£200位になります。検査費用は、すべて行うと£1,500-3,000程度かかります。治療は、人工授精は、£1500程度、体外受精は、排卵誘発、胚移植などを含めて初回治療で£7,000-10,000ほどかかります。

日系クリニックの場合、英系クリニックよりは廉価となります。

日本では、2022年4月より、体外受精などの高度治療が保険適応となりました。このことを鑑みますと、英系プライベート病院における体外受精は相当高額になるのが現状です。

以上、ご参考になれば幸いです。

ジャパングリーンメディカルセンター
倉田 仁（くらた ひとし）